

ドイツにおけるディアコニッセ養成がナイチンゲールに与えた影響について

広島文化学園大学看護学部

佐々木 秀 美

要約 ナイチンゲールの著作『カイゼルスヴェルト学園によせて』を手掛かりに、ドイツにおけるディアコニッセ養成の歴史概観及びその道を開いたとされるフリードナー牧師の生涯と思想について検証、同学園がナイチンゲールに与えた影響について検討した。フリードナー牧師によって設立されたカイゼルスヴェルト学園の機能はほとんど、プロテスタントの女性の聖務としての教区ディアコニッセの訓練である。訓練されたディアコニッセは同学園の“母の家”を拠点として求められる場所へ出向し、看護師や教育者として社会貢献する事であった。フリードナー牧師がナイチンゲールに与えた影響としてナイチンゲール自身が元来有する女性に対する高邁な感情、女性が社会で有用であることの正当性を保証する大きな根拠になり、後の活動源になったと考えられる。ナイチンゲールは、当時、主流の科学論を参考にしつつ、看護専門職者を育成し、経済的自立から精神的自立、そして社会的自立を推進した。両者ともに共通することは女性の福祉のみならず、教育された女性たちによる地域福祉貢献活動を推進したことである。地域福祉の考えは人々の幸福追求の自由と平等思想に立脚しており、男女の別なく人間が生まれながらに有している人権思想である。

キーワード：フローレンス・ナイチンゲール、テオドル・フリードナー、カイゼルスヴェルト学園、ディアコニッセ養成

■ はじめに

2016年12月、かねてより訪問したかったドイツデュッセルドルフにあるカイゼルスヴェルト学園を真壁伍朗氏より頂いた『カイザーズヴェルト訪問記〈1〉』¹⁾、『カイザーズヴェルト訪問記〈2〉』²⁾、『看護揺籃のときから150年ーカイザーズヴェルトを訪ねてー』³⁾を携えて訪問した。カイゼルスヴェルト学園は、ディアコニッセ養成機関であり、フローレンス・ナイチンゲールも訪れたことがある。ディアコニッセ (Diakonisse) とは、女性の助祭もしくは執事をさす。ギリシャ語で Dia on は女性を意味する。Diakonos という言葉は新約聖書に出てくる言葉であり、家事の雑役に使える者をさした。これをディアコニッセとしたのは、その養成を開始したドイツのテオドル・フリードナー牧師⁴⁾ である。

既に筆者が『ナイチンゲールの看護・福祉思想ーカイゼルスヴェルト学園によせてを手掛かりに』⁵⁾ で報告したが、1851年に執筆された『カイゼルスヴェルト学園によせて』⁶⁾ は、ナイチンゲールの同学園における見聞録である。実際、同著の内容で、最初に目につくのは“19世紀は女性の世紀”となるにちがいないという冒頭の言葉である。この言葉が著作全体の論旨を示しており、それは、女性への関心であると考えられた。次に、女性の為の神の仕事としての“婦人執事” (ディアコニッセ) の歴史概観とカイゼルスヴェルト学園の設置についての歴史概観へと論が進み、最後に各論としてこの論文の主要テーマであるカイゼルスヴェルト学園の施設説明を行っている。それは、1. 病院とディアコニッセの母の家、2. 刑期を終えた女性のための更生所と教護院、3. 「教



図1. テオドール・フリードナー牧師『ディアコニ1』p.24より

区』とディアコニッセ, 4. 師範学校, 孤児院そして幼児学校についてと論が進む。それがナイチンゲールが丹念に調査した, あるいは観察した内容である。その論述は丁寧でわかりやすく, 結論的には, “19世紀は女性の世紀” に対応した内容で在り, “オールド・ミス” へのエールとも言える。それぞれの施設は必要に応じて設置されたものであるが, 基本的には, 女性たちを看護師や教育者として訓練する場でもあった。訓練を終了したディアコネス達は, 同学園の“母の家”を拠点として求められる場所へ出向し, 社会貢献した。

フリードナー牧師が目指したことは女性たちをディアコニッセとして養成し, 彼女たちへの看護・教育を通じた地域福祉貢献活動であると同時に女性達の福祉活動であった。ドイツにおける看護方式が一般的に“母の家方式”として看護界では広く認識されている⁷⁾のは, こうした所以である。因みに, ナイチンゲールは1850年に同学園に学んだ後, 1853年に婦人病院の看護監督官の職を得た。その後の, 1854年にクリミア戦争に従軍し, 様々な社会問題について提言・改善を果たした。そして, 1860年には看護教育を開始したが, その教育方法はナイチンゲール方式と呼ばれる。この教育の目的も筆者が『ナイチンゲールー女性の専門職を創設するー19世紀は女性の世紀ー』⁸⁾及び『ナイチンゲールと看護教育ーその教育目的へのアプローチ』⁹⁾で検証したように女性たちを自身の考える理想的な女性像に限りなく教育することであった。『カイゼルスヴェルト学園によせて』を検証・分析した山岸仁美等(2003)らは, カイゼルスヴェルト(Kaiserswerth)学園は, ナイ

チンゲールにおける看護学教育の源流¹⁰⁾であると結論づけている。しかしながら, 筆者は女性を教育して自立を求めた点では見解を一つにするが, ナイチンゲールの教育方法は全く彼女自身の独創的な方法であると考ええる。そこで, 本研究では, ナイチンゲールの著作『カイゼルスヴェルト学園によせて』を手掛かりにしつつ, ドイツにおけるディアコニッセ養成の歴史概観及びその道を開いたとされるフリードナー牧師の生涯と思想について検証し, ナイチンゲールに与えた影響について検討する。

■ テオドール・フリードナー牧師の生涯と思想

テオドール・フリードナー牧師の生涯については『Life of Pastor Fliedner』¹¹⁾, 『ディアコニ』¹²⁾, 『ディアコニ』¹³⁾, 『カイゼルスヴェルト学園によせて』を参考にした。

フリードナー牧師は, 牧師ヤコブ・ルートヴィヒ・フリードナー(Jakob Ludwig Fliedner)と彼の妻ヘンリエット(Frau Henriette Fliedner)の12人の子供の一人として1800年に誕生した。彼は兄弟と一緒に教育を受けたが父親の影響を受けて早い時期から牧師になることを決めていた。13歳のときに父親が死亡したため, 高校に通うことを困難にさせたが, 1817年には, 奨学金を受けてギーセン大学¹⁴⁾に入学した。在学中に福音派の神学やマルチン・ルーテル¹⁵⁾について研究をした。父親から受け継いだ自然に対する愛情は, 彼を自然科学へ導いた。また, 彼は在学中に起こりうる病気と薬の調合法や農作物の作り方や子供の遊戯について調査した。卒業の年にゲッティンゲン大学¹⁶⁾にうつり, 1820年に研究を終了した。

1822年に, ドイツ, デュッセルドルフのカイゼルスヴェルトに牧師として着任した。土地の周囲の少数派であるカトリック信徒の生活は, 失業と貧困に見舞われていた。同様に経済的な困窮にあるフリードナー牧師は, 教会, 学校を回り, 基金を得, 初めての貧しい人たちのためのコミュニティを形成させた。まず, 彼は裕福な近隣の地域社会に支援を求め, そして, 数回オランダやイギリスを旅行し, 寄付金を集めた。アムステルダムで公開裁判を見た時, 彼は受刑者のひどい仕打ちを見, その人間的な取り扱いのなさに手をうつ必要があると感じた。イギリスで彼は, エリザベス・フライ夫人¹⁷⁾が英国で貧しい囚人の処遇改善に

努めていることを知った。

フライ夫人は、その生涯で12人も子供を出産、育児・家事を行いながら宗教的・社会的活動をしている傑物である。彼女は、1812年にニューゲート刑務所を訪問した際、その不衛生な悪条件の環境を目のあたりにした。そして、最も重要なことはその施設が、犯罪者が更正するための施設ではなく、囚人を悪い習慣に陥せるような施設だった事である。500人収容の施設に800人もの囚人を収容していた。囚人たちはベッドも掛け布団もなく、換気も病人の看護もなく、酒を飲み、叫び狂って女たちの間を半裸の子供たちが駆け回り、疫病のような空気が室内に漂っていた。フライ夫人が4年後に再度、この刑務所を訪れた時にも全く変化はなかった¹⁸⁾。彼女の改革は、犯罪者の再犯を防ぎ、彼らが自尊感情を得るよう支援する必要があると感じたことによる¹⁹⁾。

フリードナー牧師も女性達の状態が、いかにみじめであるかにまもなく気づいた。罪を犯した女性達は往々にして生計の手段が見つからないので、言ってみれば強制的にふたたび罪を犯さざるをえない状況にあることに気付いたのである。刑務所が改心のための更生施設ではなく、悪徳のための施設にさえなっているという事実によりフリードナー牧師の関心は向かった。

1826年に彼は、ドイツのデュッセルドルフではじめて刑務所規律を改善するための協会を作り、被拘禁者の生活条件の改善に努めた。1833年にみすばらしく粗末な教護院（Asylum）をカイゼルスヴェルトに設立した。彼は、報酬なしでその運動に参加してきた一人の女性と服役をすませた一人の志願生と共に、自分の庭のそまつな小屋で仕事を始めた。フリードナー牧師が始めた囚人のための家はドイツでは初めての試みであり、全国に彼の名前を知らしめることになった。彼は、教会の牧師としての責務を果たしながら、他方では、資金難に陥る彼の事業を推進するために、募金活動に奔走した。ナイチンゲールが見聞した時代には、幼児学校の隣に移転して当初のみすばらしい小屋から建物が大きくなっており、幼児学校へのびる農場と付属学校を備えた広大な庭と広場がうしろにできていた。学園に教護院を創立して以来、197人が受け入れられてきた。学園は牢獄と社会生活のつながりを円滑に行わせる役目をする場所であり、彼女たちが社会に対するなんらかの奉仕ができるように力をつけると同時に、彼女たちの更



図2. エリザベス・フライ『ディアコニ9』p.24より

生の願いを強め励ます場所であった。

1833年12月に製造所の中に病院を設立した。それは、ひとつには有能な看護師が非常に不足しているのを感じて、またひとつには有能な女性の能力が無駄にされているのを見て残念に思い、また初期のころの学園に志願した者が自分の技能を養うために、さらに広い分野を求めたことが発端であった²⁰⁾。病院はおもにディアコニッセを訓練する目的で設立され、あらゆる種類の病人が受け入れられたこともあって、その年の治療率は大変良いというわけにはいかなかった。その学園で看病を受けた患者の数は60人にもものほり、自宅療養の28人も彼女たちの看護を受けた。最初の1年間で看護師の志願者の数は7人に増え、このひとたちは6ヶ月の見習い修業についた。『ディアコニ』²¹⁾によれば、病院は最初から困窮者や見捨てられた人々が受け入れられ、伝染病の患者も不快な患者も一切断らない、いわゆる慈悲の家であった。ほとんどの奉仕女が任務の理解をしておらず、あるものは利己的な動機から、また、あるものは勝手な理想を当てはめて失敗し、退去を余儀なくされることもあった。その中で、ゲルトルト・ライヒャルト²²⁾は、どんな仕事でも嫌がらず静かで霊的な態度と病気を看護する技能とは、真の奉仕女として全ての者の模範となった。しかし、フリードナー牧師は、ライヒャルトの働きに関しては満足していなかったようである。実際に、ディアコニッセ養成において、フリードナー牧師の考えを具現化できたのは妻のフリードリケ・フレーベル²³⁾であった。

しかし、先述したようにライヒャルトが、真の

奉仕女として全ての者の模範となったと評価されたように、ライヒャルトの黙々としたディアコニッセの指導者としての態度と病気を看護する技能は、学びの段階にあるディアコニッセ達に素晴らしい影響を与えたであろう。

ナイチンゲールも証言するように、1850年にナイチンゲールがカイゼルスヴェルト学園で看護を学んだ時期、ライヒャルトは今なお現職として働いていた。ナイチンゲールの観察によれば、高齢になったライヒャルトは、体力の衰えのために今では身体を使う介助は十分にできないが、世話は献身的であり、極めて貴重な働きをしたので男性の患者は彼女を母とみなしてさえいる。

また彼女は見習い生や若年のディアコニッセに指示を与えたり、助言をしたりと、大きな貢献をしていた。

病院での看護の状況を改善するためにフリードナー牧師は1836年にディアコニッセ養成学校、いわゆる“プロテスタントの看護師のための学校”を設立した。同時に非行を防止するために、子どもや若者の貧困層の教育条件を改善するために、1836年に小さな子供や幼児・教師のために学校を建てた。その部門の第一は幼児学校であって、ナイチンゲールの観察によれば、そこには40名の子供たちと幼児学校の女教師となるための訓練を受けているほぼ同数の若い女性達がいた。これらの人々は必ずしもディアコニッセになろうとしているのではなく、大部分の者は独立することを望んでいた。

幼児学校では第一級の女教師ヘンリエッタ・フリッケンハウス（Henrietta Frickenhaus）が指導にあたった。彼女は学校長として子供のマネジメントに対し、顕著な知恵を有し、長い間近隣周辺の地域から“ヘッティおばさん（Aunt Hetty）”と呼ばれた²⁴⁾。彼女は幼児学校の女教師の聖務につきたい400人以上の志願生を訓練してきた。

フリードナー牧師は1842年に孤児院を設立した²⁵⁾。ナイチンゲールの時代、そこは2家族になっておりそれぞれに12人の孤児がいた。主として孤児は牧師や校長やそして他の尊敬すべき両親の娘たちであって、めいめいのディアコニッセと一緒に住んでいる。ディアコニッセたちは担当を任された子供たちを親身になって世話し、一緒に眠り、一緒に食事をして、家庭生活の中で彼女たちを教えている。この施設は、これからディアコニッセや教師になろうとするひとたちのための訓育の土



図3. ライヒャルト『ディアコニ5』p.24より

壤となることが期待されている。孤児院に付属して授産学校、昼間学校そして幼児学校の女教師のためのセミナリティ（師範学校）がある。ここで彼らは第一級の教師や幾人かの優秀な女教師から教えることを学ぶ実地的な教育と、自分たちに必要なあらゆる部門の理論的な教育を受け（孤児院、幼児学校、教区の昼間学校、また病院の中の小児病棟をひとつずつ回って）、そして教師自身と牧師補とからは宗教的な教育を受けた²⁶⁾。これらすべての施設のための浴場はライン河にあり、“るいれき”の子供たち（scrofulous children）はこれから非常な恩恵を受けている²⁷⁾。そして、並んだ家のうしろにはおよそ40エーカーの土地があって、その施設には野菜と薬用植物と、8頭の牡牛と5、6頭の馬には牧草をもたらししていた²⁸⁾。ドイツでは、1840年に最初の幼稚園がフレデリック・フレーベル²⁹⁾によって設立された。社会が女教師について懐疑的であった時代にあって、フリードナー牧師のディアコニッセ養成は、フレーベルに劣らない教育上の功績であると評価された。それはドイツ国家が彼の師範学校に必要な助力を行い、その結果、教育された教員の有能さが文部省にも認められるほど有能であったからである。その後、10年もたたないうちに次々と教育施設が設立された。

フリードナー牧師はディアコニッセを保護し、その専門性を強調するために、彼女たちに立派な制服を与えた。この制服を着ている者は、共同体に属していることを示し、母の家に属さない者たちと外面的にも区別された。ディアコニッセの日常を構造化し、規制し、特に精神的生活を支援し、

共同体の基盤となった。1839年に最初のディアコニッセがフランクフルトの施設に派遣された。その後、ライツ（Rheydt 現在のメンヒェングラートバッハ）³⁰⁾、フランクフルト（Frankfurt）、キルヒハイム（Kirchheim）等で多くの母の家が登場した。当然のことながら、カイゼルスベルトはキリスト教的慈善団体の拠点になった。1861年の25周年記念式典には13の母の家の代表者が集まってきた。この時、すでに25の母の家が国内外に設立されていた。

フリードナー牧師は最初の妻であるフリードリケと1828年に結婚した。彼女は、1842年に出産で死亡するまでの間に11回の出産を経験し、無事に出産できた7人の子供も生き残ったのは3人である。そうした、度々の出産経験と育児・家事の間に、彼女はディアコニッセ養成に尽力し、直接の指導を行い、派遣についても相談に乗り、任地から帰ったディアコニッセ達を母親のように迎えるなど、母の家の母の機能と役割すべてを体現して見せた³¹⁾。フリードリケは、1842年に彼女が死亡するまでディアコニッセ養成における中央組織を運営した。彼女が残した手帳には、「誰も技術を追うあまり、たましいを犠牲にしてはいけない。」³²⁾と書かれていた。その手帳には、ディアコニッセ養成における規範とするべき内容が記されていた。

1842年にフリードリケが出産で死亡したあと、フリードナー牧師は、1843年にキャロライン・パーソー³³⁾と結婚した。彼女は結婚後、夫の仕事に大きく関わるようになった。当然のことながら、ナイチンゲールが同学園に学んだ時、フリードナー牧師の妻はキャロラインである。1844年にはテオドル・フリードナー財団が設立され、1852年に彼はカイゼルスヴェルトに女性患者の心のケアの為に病院を設立した。フリードナー牧師の亡くなった1864年には母の家のディアコニッセは16,000人となっていた。ディアコニッセは母の家から送られ、その命に服するという共同体の秩序となっている。そして、100年の間にこの組織は大きく飛躍し、47,000人のディアコニッセがドイツ国内外の職務についており、120の母の家がそれぞれの活動分野を持って活躍している³⁴⁾。

■ ドイツにおけるディアコニッセ養成の歴史

先述したようにディアコニッセ養成はフリード

ナー牧師によってはじめられた。ナイチンゲールが『カイゼルスヴェルト学園によせて』に記述したように、フリードナー牧師のディアコニッセ養成は大きく、看護奉仕と教育奉仕に分けられる。ナイチンゲールは、神が創造し給うたものに無駄なものはないと述べたようにそれは基本的に女性たちのための奉仕集団の育成であった。そして、ナイチンゲールは、どのような種類の不足に対しても、神が満たし給う恩恵をいつでも見つけることができると述べ、「キリスト教のごく初期に直接に神の祭式に女性の能力を用いた使徒の制度を知っている。」³⁵⁾と述べている。彼女は、彼女らが教会の“召使い”として奉仕に携わっていたのをみる時、女性にも神に与えられた役割があると述べた。「キリスト教における女性奉仕の発生」³⁶⁾には、主の母であるマリアを筆頭に、教会奉仕をした女性たちについて述べている。しかし、共同体という意味はあっても、それは組織として確立したものではない。その最高の目的は、説教することではなく、信徒のために道を培う、神の言葉が人々に伝わるように仕えることであり、他の人々のために生き、謙遜で、自らをささげるといった言葉が奉仕の真意であった。

12世紀の末ごろに、未婚の女性や、未亡人たちを集め、神の御心にかなう生活をするための家を建てた。これは創設者の名前ラムベル・ベグ（Lambert Le Begues）にちなんでベギーネ（Beghine）と呼ばれた。彼女たちは、ベギーネ内に設立された病院で奉仕をする義務があった。未亡人たちの教会奉仕が続けられたが、ディアコニッセの仕事も増えてきた。その仕事は徐々に世の中から逃避した修道院の中で行われるようになった。しかし、16世紀に入って“プロテスタント教会における書生奉仕”が台頭した。1530年のウエストファーレン市にある教会規則に婦人たちが貧民救済の奉仕についての規定を見出すことや、1549年からジーゲン郊外のケッペル修道院にディアコニッセの役職が制度として生まれたことが記されている³⁷⁾。ナイチンゲールもルッター（ルーテルの事）の身のまわりに執事の聖務にふさわしい者が少ないことに不満をもらしていると書いている。そして主がそのためにキリスト教徒をお造りになるまで待たなければならないといい、さらに女性は悲哀を軽くする特別なやさしさをもって、女性の言葉は男性のそれよりも人々のところを動かすと付け加えている（Luther's

Works[Walch's Edition], xi.2755, ii.1387)。しかし、ルーテルは、宗教改革は実行したが、ディアコニッセの仕事についての改革は実行しなかった。

1633年にヴァンサン・ド・ポール³⁸⁾によって修道女団の聖職 (the Order of Sisters of Mercy) が規定されたが、そのずっと前でも、ディアコニッセの聖務の重要性がキリスト教徒の各派によって認められていたのは確かである。ナイチンゲールが同著にも述べたように聖ヴァンサン・ド・ポールが設立した慈善修道女会による看護の奉仕活動は、4世紀にも遡ると言われている。十字軍の出兵にあわせて行われた看護奉仕団が、そのままキリスト教伝導の目的とも相まってナイチンゲールの時代にも続けられた。ナイチンゲールは、あまりにも多くの人々がこれを、もっぱらローマ・カトリック教会から借りてきた制度だと思い、そのために偏見を持っているので、私たちはさまざまな時代に、あらゆる教会の中で、そしてプロテスタント信仰のごく初期にもその聖務が存在していたことについての他の多くの立証を示す余裕をもてたらよいのと思う³⁹⁾と書いた。

『前世紀における女性奉仕の再興』⁴⁰⁾によれば、ナポレオン戦争が契機になって、福音の原則に従って女性奉仕を起こすに最適な時期になった。フリードリッヒ・クレンネ (Friedrich_Kuren'ne) という神父はディアコニッセの再興を促す論文を発表した。彼の主張は「教会の未婚・既婚の女性は一つの団体を作り、一人の幹事の指導の下に、病人や貧者の世話をすることであり、ディアコニッセにはディアコンと同じ地位の教会職であらねばならない」⁴¹⁾ということである。ディアコン (Diakon) とは、ディアコニッセに対比した男性呼称である。

次に、アダルベルト・フォン・レッケーフオルマシュタイン (Adalbert von Recke-Vollmerstein) は、キリスト教の慈善運動の活動家であり、ライン湖畔の救済施設や国内伝道の様々な施設の設立者でもある。彼は1835年に『ディアコニー、即ち、教義・教育・看護のための教会奉仕女の生活と活動』という表題の本を出版した。彼は著作の中で、ディアコニーを教会職として提案したが、提案のみに終わった。彼の計画は後にフリードリッヒ・ウィルヘルム四世⁴²⁾に提出された。ウィルヘルム四世は、この奉仕女復活の提案を積極的に支援したが、しかし、レッケーフオルマシュタインの主張する教会奉仕女は、実現には至らなかった。

貧しい病人たちは打ち捨てられ、肉体的にも精神的にも良い看護が受けられず、医者は看護人の飲酒癖やその他の悪習を嘆いていた。精神の看護には言う言葉もなかった。キリスト者である女性によるキリスト教的な看護ができないだろうかと考えたフリードナー牧師は、1836年に、最初のディアコニッセ養成のための学校を設立した。しかし、このディアコニッセ養成に適切な女性を見出すことは困難であった。そこで、採用されたのが先述したライヒャルトであった。ディアコニッセと病人のために小さな家を買取ったフリードナー牧師だったが、資金面や設立への反対など、苦境に立たされることがたびたびあった。我々のような、キリストの愛のゆえにある無料の慈善の家は何人にも門は閉ざしてはならぬ。どんな病気でも締め出されることはない。見捨てられた状況がひどければひどいほど、私たちは、その人にかくれ場を開いてやり、かくして零落した者を最も憐れまれた神の人々への御跡に従う義務を痛感するのであると彼は考えた⁴³⁾。ディアコニッセは地上の報いと名誉を受けるためではなく、病を負い、その苦しみを己の肩に担がれた方への感謝の愛から、病人看護をしなければならない。ゆえにディアコニッセは万時をイエスの御名において、主のため、主の模範に従ってなすように努めなければならない。このような敬虔な愛の看護にあって、ディアコニッセは正しい純粋な奉仕愛の精神が生まれた。フリードナー牧師は心の中にこの服従と愛を結びつけることを新教的倫理の本質、または新教的思想の本質であると理解したからこそ、女性奉仕を独創的に再興する⁴⁴⁾ことができたのであろう。そして、フリードナー牧師のこの事業を可能ならしめた資質として、いろいろな分野における専門知識、秀でた統合能力、強い意志力、たゆまぬ勤勉があるが、その他にこの創始事業において、憐み深い心、神の御国の偉人にのみ与えられる愛の着想、そして女性に働きかける素晴らしい力の三つを兼ね備えていたからである。

フリードナー牧師は誰にも増して女子教育者であった。彼は女性を尊敬し、女性の特殊な才能を知り、女性にその責任と自主性を求めさせた。フリードナー牧師はナイチンゲールが歴史検証したように、古い時代のディアコニッセの職務を再興し、新しい時代の女性の聖務としての“母の家”という共同体の形態を作った。それは、全ての女性たちが神のみ言葉の力と教えの下に神の恩恵の

下に愛の奉仕につけるよう準備を整えた信仰共同体であり、女性たちを同一の信仰の下に母の家という一種の寄宿舎としての集合母体を作った。養成されたディアコニッセは母の家に所属し、求めに応じて出向した。この“母の家”という方式がドイツにおける看護方式として看護界で一般的に認識された教育の特徴となった。

■ ナイチンゲールが受けた影響

学びを終えて帰国するナイチンゲールにフリードナー牧師は、自分の教え子としてのナイチンゲールの頭に両手を置き、「カイゼルスヴェルト滞在が実りをもたらし、豊かな才能が人々の愛の業のために聖別されるように祈った。」⁴⁵⁾と書かれているようにナイチンゲールは、フリードナー牧師にとって特別な存在であったようだ。

ナイチンゲールの著作『カイゼルスヴェルト学園によせて』の冒頭の、“19世紀は女性の世紀”という言葉が示す通り、彼女の視点は常に女性に向けられていた。この言葉は一般にジョン・スチュワート・ミル⁴⁶⁾の言葉として有名である。しかし、19世紀は女性の世紀という言葉の真の実現はナイチンゲールに始まると筆者は考えている。ナイチンゲールは、“19世紀は女性の世紀”となるにちがいない、という古い言い伝えがある⁴⁷⁾と述べ、この時代ほど女性がその能力を開発する自由ばかりでなく、その機会を与えられている世紀はかつてないのに、行動のための女性の教育と知識のための教育とが足並みをそろえていないと述べた。女性が一人の人格として尊重される事、これは重要な問題であった。同時にフリードナー牧師が行ったディアコニッセ養成は、女性たちが教育・看護の職に従事できるよう教育する養成機関であった。そのことを考えたときに、彼の視点も女性に向けられていたと考えられ、両者の一致点は女性に教育を施し、その有効性を示したことである。先述したように、フリードナー牧師は、女子教育者であり、彼は女性を尊敬し、女性の特殊な才能を知り、女性にその責任と自主性を求めさせたという点ではナイチンゲールとの一致点であり、ナイチンゲール自身が有する女性に対する高邁な感情、イギリスの伝統的な女性像、つまりは、女性は家庭内にとどまるべきという規定概念を覆すべきという考えの正当性を保証する大きな根拠になり、後の活動源になったと考えられる。

病院の環境を改善し、悪質な看護師を一掃すること、それは彼女が有する理想的な女性像を具現化することであり、しかも、医療の分野に新しい専門職を創設し、発展させるにはその独自性が主張されなければならない。人格とは自立的意志を有し、自己決定的である個人であり、それは職業も含まれる。女性を専門職業に向けて教育する事、それは単に女性にその職業的訓練を施す事のみではない。

看護教育草創期のナイチンゲール方式と呼ばれたその教育の特徴については『ナイチンゲール方式による看護教育の特徴とその拡がり—教育の創造と伝承—』⁴⁸⁾や『ナイチンゲールの看護観—その目的実現のための教育方法—Nursing is not an Art but a Character』⁴⁹⁾で報告したが、基本的に①マトロン (Matron) と呼ばれる看護総監督の存在、②寄宿舎におけるホーム・シスターによる教育、③医師による基礎専門教育、④病棟シスターによる実践教育⁵⁰⁾である。

ナイチンゲールは、基本的に看護師の養成機関を病院付属にし、“見習い制度”を採用した。“見習い制度”の持つ教育作用、すなわち、それは実践を伴う“知”の統合である。その教育効果は大きく、単に思考を伴わない機械的な反復練習や無意味な束縛といった徒弟制度的な方法ではない。ナイチンゲールの看護教育方法では、まず良質の環境が準備され、その中で経験し、感化され、更に激しく訓練されるという教育作用を十分に意識し、意図的に教育計画されたものであった。そのことにより、ナイチンゲールが構想した看護専門職者に必要な知識・技術を具有させることができ、かつ人間性の向上をめざすことが可能となったのである。

まず、マトロン (Matron) と呼ばれる看護総監督は、教育における最高責任者である。看護総監督は看護師として最も権威のある存在であると同時に、病院中で最も優れた看護師でなければならなかった。見習い生達の選抜や退学に責任を持つと同時に、その教育にあたるホーム・シスターや病棟シスター達の最高責任者でもあった。病院で働く全ての女性に対して権威と規律とを持っている人が看護総監督であり、まさにその模範であった⁵¹⁾。ナイチンゲールは優れた看護師とは優れた女性であり、優れた女性とは「より良く、より高く、より清らかな資質を備えた女性」⁵²⁾であると述べた。看護総監督は全ての看護師の目標で

あり、看護師達の理想的人物としての象徴であつたろう。

次に特徴的なのは寄宿舎制度であり、これはホーム・シスターによって教育がなされた。ナイチンゲールは「環境は道徳的で宗教的かつ勤勉で節度ある上に朗らかな調子や雰囲気満ちている。だから、どの階級の若い善良な女性が入ってきて、心身の健康を損なう心配のない一つの“ホーム”として訓練学校と病院とが運営されている。道徳的で精神的に高める援助があり、慈しみに満ちた母親の様な気遣いが全てに及んでいるので、全体が優れた女性達を訓練し、誘惑を退けさせ、現実と与えられた仕事に取り組む事ができる状態になっている。」⁵³⁾と述べている。これは、フリードナー牧師のディアコニッセ養成がナイチンゲールに強く影響を与えている点であると考えられる。彼女は看護にキリスト教的愛の精神を求め、自立や規律の精神を訓練する場として最もふさわしい教育が成されることを期待したと考える。ナイチンゲールは自分の体験からもこの事を知っており、個人を規則によって外的に規制しながら、キリスト教の理念を指標とし、寄宿舎による精神性の高い教育で内的にも規制しようとした。寄宿舎を女性達の心身を教化・訓練する場になるよう道徳的な雰囲気に設定し、その環境の中で女性たちの心身が健やかになれるよう、母親が子ども達に愛情を注ぐ家庭と同様に精神的な安らぎの場になるようにした。彼女は自分の体験したカイゼルスヴェルト学園でのキリスト教的愛の優しさや、明るさや、繊細さ、あるいは道徳的な雰囲気を高く評価しており、そうした環境の中に見習い生達をおきたかったのであろう。彼女の女性としての生き方はキリスト教を基盤としたものであったが、実際には既存のキリスト教的教義の枠を越えていた。それはフリードナー牧師が、ディアコニッセを看護活動に従事するのみならず、女性の聖務としてキリスト教の伝導者養成をも目論んだことである。しかし、ナイチンゲールの看護教育の目的は、キリスト教の理念をその活動の指標としながら、弱者救済の立場にたてる看護専門職者を養成する事である。しかもそれは明確に報酬を受けるに相応しい職業的自立心のある女性達に作り替える事であった。

病棟シスターによる実務経験の他にナイチンゲールは見習い生達に医師達が行う臨床講義の“講義ノート”を作らせ、病棟での実際の看護を

通して症例を記録させ、これらと理論的に学んだものとを突き合わせて分析する事を義務付けた。又、日々の症例報告には“体温”や“脈搏”等のような項目をつけさせ、これらの観察と経時記録、病気の始まり、経過の観察とを記録させ、分析するよう義務づけた。ナイチンゲールは「看護師は脈搏のいろいろな変化の意味と、脈の性質が意味している事を理解しなければならない。」⁵⁴⁾と述べ、疾患との関連性について言及している。患者の変化の一つ一つを見逃さない為にも、先に述べた専門基礎知識と実践における観察との突き合わせが必要である。ナイチンゲールは、臨床経験を大きな学習の機会としたのである。こうした経験の連続が知識となると、次に起こり得る事が予測できるようになると、他のケースにも適用できる。同校の卒業生であるレベッカ・ストロング⁵⁵⁾は、臨床で患者の症例から学ばせる方法は優れていたと述べている。そこで観察した事や経験したことを記録させる事によって自己の看護を総括、評価させ、また、新たなステップにさせようとしたものと思われる。経験学習とは観察によってえられた一定の性質であり、この連続が一つの学習を成立させる。ナイチンゲールは経験の概念を一つの法則として十分に説明付けることはできないと述べながらも、この経験の概念を学習のステップ・アップに使った。

最後にナイチンゲール方式では臨床教授法にも似た医学の基礎教育があった。この教育は主として医師による医学教育である。フリードナー牧師が開設したディアコニッセ養成では基本的にフリードナー牧師自身がギーセン大学で学んだ病気と薬の調合法に関する知識が基礎になっていると考える。健康な人間の生物学的理解、これは人間の解剖学的知識と生理学的な知識が必要であり、これらを理解した上で各種疾患に関して病態・生理学的知識と疾患の原因等を理解する必要がある。ナイチンゲールは、「学習の時間には学ぶことに没頭し、注意深く記録を取り、更に例外的な症例でも関心を引くものについては記録をとる」⁵⁶⁾ ことによって自分の観察力を高めていくようにしようと述べ、疾病の原因に関しては、原因は何かを考え、それに対し、何を成すべきかを考えようと述べている。それは、当時、主流であった実証哲学的な因果検証の考え方であった。

少なくとも、当時の医療水準の中で、病気の原因を環境との関連において考えようとしたナイチ

ンゲールは、当時主流であった“自然の法則”の中でそれらを発見しようとした。つまり、ナイチンゲールによれば、周囲の環境を十分観察すれば、病気の原因を見いだすことができ、その環境を整えれば病気は自然に回復するというものである。それは、観察に始まる科学的な手法を用いたものであり、看護を受ける対象がいかなる健康問題を有しているのかにも繋がる探究でもあったと考える。ゆえに、ナイチンゲールが実施した看護の教育方法は、彼女自身が開発した独創的な教育である。少なくとも、両者の相違は、フリードナー牧師が女性の聖務としあるいは慈善団体として看護師を育成したが、ナイチンゲールは、当時、主流であった科学論を参考にしつつ、看護専門職者を育成し、経済的自立から精神的自立、そして社会的自立を推進したのであろう。それは、女性たちの“生きる”，すなわち、生存権の問題への解決策でもあった。

ナイチンゲールの教育方法が医療にとって有効であると評価されたのち、ナイチンゲール方式はドイツにも逆移入された。それは、1886年にヴィクトリア女王の第一皇女、フリードリッके皇后⁵⁷⁾がベルリンにヴィクトリア慈善病院を建てた時である。同病院には、聖トマス病院ナイチンゲール看護師養成学校で看護の教育を受けたフルマン(Fraulein Louise Fuhrmann)という看護師が責任者として任命され、ナイチンゲール方式で看護教育を行ったとされている。

■ おわりに

ナイチンゲールの著作『カイゼルスヴェルト学園によせて』を手掛かりにしつつ、ドイツにおけるディアコニッセ養成の歴史概観及びその道を開いたとされるフリードナー牧師の生涯と思想について検証、同学園がナイチンゲールに与えた影響について検討した。フリードナー牧師によって設立されたカイゼルスヴェルト学園は、病院、更生所と教護院、師範学校、孤児院・幼児学校を付設していたが、その機能はほとんど、プロテスタントの女性の聖務としての教区ディアコニッセの訓練である。その訓練は女性たちを看護師や教育者として教えられるようにすることであり、訓練されたディアコニッセは同学園の“母の家”を拠点

として求められる場所へ出向し、社会貢献する事であった。それは女性の福祉のみならず、教育された女性たちによる地域福祉貢献活動である。地域福祉の考えは人々の幸福追求の自由と平等思想に立脚しており、男女の別なく人間が生まれながらに有している人権思想である。福祉の基本理念はそうした人権思想に基づくものである。人権思想が自由・平等・健康・幸福の追求にあるとしたら、人々が暮らす日常生活においてこれが実現されなければならない。我が国の高齢者福祉に関する問題等は、個別と言うよりも、それぞれが相互に重なり合う公共の福祉、すなわち、社会集団に対する福祉思想の実現である。

他方、ナイチンゲール、フリードナー牧師両者ともに、女性問題に対する取り組みで、女性を尊重するという点では一致したが、教育方法とその体系的な施策では大きな違いがあった。それは、フリードナー牧師が女性の聖務として、あるいは慈善団体として看護師を育成したが、ナイチンゲールは、イギリスビクトリア時代の象徴である科学論を参考にしつつ、看護専門職者を育成し、経済的自立から精神的自立、そして社会的自立を推進したことである。ナイチンゲールがフリードナーから学んだことは、ナイチンゲール自身が有する女性に対する高邁な感情、女性が社会で有用であることの正当性を保証する大きな根拠になり、後の活動源になったと考えられる。カイゼルスヴェルトには現在、ナイチンゲール記念病院があるが、その病院は、当時設立された病院が大きく発展したものである。学園の入り口近くにある共同墓地には、フリードナー牧師と並んで埋葬されているのは、二度目の妻のキャロラインである(図5)。

フリードナー牧師のディアコニッセ養成は、国内外で大きく発展したが、それは日本にも影響を与えた。戦後、ドイツ人女性ハニ・ウォルフ⁵⁸⁾が日本で残したものは単に活動したということのみならず、福祉活動としてその精神性への影響が高かったことであろう。それは、ケアとしての看護の原点でもある。フリードナー牧師やハニ姉妹の地域福祉貢献活動は全ての人の幸福実現に向けた取り組みであり、人権思想に基づいた弱者救済活動である。その活動が日本にも及んだということが大層意義深い。



図4. テオドル・フリードナー牧師の墓（著者撮影）



図5. キャロライン・フリードナー牧師の墓（著者撮影）

注

- 1) 真壁伍朗著：カイザースヴェルト訪問記〈1〉，総合看護，pp.61-72，1981年。
- 2) 真壁伍朗著：カイザースヴェルト訪問記〈2〉，総合看護，pp.59-77，1982年。
- 3) 真壁伍朗著：看護揺籃の150年ーカイザースヴェルトを訪ねて，総合看護，pp.7-22，1986年。
- 4) テオドル・フリードナー牧師（Pastor Theodor Fliedner 1800-1864）：プロテスタントの牧師。ドイツのカイゼルスウェルトに赴任した際に，人々が経済的に苦境に陥っていたため，救済資金を求めてイギリスに足を伸ばした。そこでエリザベス・フライ女史の女囚保護事業活動を知ってドイツに広めようとした。その一環として1836年に看護師の養成所も含めたカイゼルスウェルト学園を創立した。
- 5) 佐々木秀美著：ナイチンゲールの看護・福祉思想ー「カイゼルスウェルト学園によせて」を手掛かりに，看護学統合研究 Vol.18, No.2, pp.14-34, 2017年。
- 6) Florence Nightingale (1851): The Institution of Kaiserswerth on the Rhine for the Practical Training of Deaconesses, under the Direction of the Rev., (湯慎ます他訳：ナイチンゲール著作集第一巻，カイゼルスウェルト学園によせて，p.12, 現代社，1983年。)
- 7) Lucy Ridgely Seyme, A General History of Nursing (小玉香津子訳：看護の歴史，医学書院，1978年。)
- 8) 佐々木秀美著：ナイチンゲールー女性の専門職を創設するー19世紀は女性の世紀ー，看護学統合研究 Vol.13, No.2, pp.16-41, 2012年。
- 9) 佐々木秀美著：ナイチンゲールと看護教育ーその教育目的へのアプローチ，看護教育 Vol.36, No.1, pp.67-71, 1997年。
- 10) 山岸仁美，阿部恵子，寺島久美，三宅玉恵：ナイチンゲールにおける看護学教育の源流ーカイゼルスウェルト学園によせてよりー，JOURNAL OF FLORENCE NIGHTINGALE STUDIES, Number 9, March 2003.
- 11) Catherine Winkworth, Life of Pastor Fliedner (1867), Longmans, Green, and Co. 2009.
- 12) 深津文雄編：テオドル・フリードナー牧師，ディアコニ No.1, pp.10-11, 1954年6月。
- 13) ハンナ・シーフェルト著，深津文雄編：フリードナー牧師伝1，ディアコニ No.12, pp.8-13, 1956年4月。フリードナー牧師伝2，ディアコニ No.13, pp.8-13, 1956年6月。フリードナー牧師伝3，ディアコニ No.14, pp.8-13, 1956年8月。フリードナー牧師伝4，ディアコニ No.15, pp.8-13, 1956年10月。フリードナー牧師伝5，ディアコニ No.16, pp.8-13, 1956年11月。

- 14) ギーセン大学 (Justus-Liebig-Universität Gießen) : 同大学は, 1607年にドイツヘッセン州ギーセンに設立されたドイツ語圏で最も古い大学の一つ。設立当初学ぶことができる学科は神学, 法律, 医学, 哲学であったが, 18世紀後半の改革により獣医学, 経済学などが追加された。
- 15) マルチン・ルーテル (Martin Luther 1483-1546) : ドイツ生まれ, ドイツ宗教改革の頂点に位置する人物。1501年にエルフルト大学に入学。1502年に学士号, 1505年に修士号を取得した。1510年にローマに派遣され, その地の腐敗に衝撃を受ける。教皇庁の発行する免罪符やドミニコ会修道士ヨハン・テツルの破廉恥な行為に怒りが爆発, 行為ではなく信仰による救済の教義を説いた。
- 16) ゲッティンゲン大学 (Georg-August-Universität Göttingen) : ドイツのニーダーザクセン州ゲッティンゲンにハノーヴァーのゲオルク・アウグスト (Georg II. August 1683-1760 ハノーヴァー朝第二代グレートブリテン国王 (在位1727-1760)) によって1737年によって設立された。彼は科学尊重の大学としてこの大学を設立したとされる。
- 17) エリザベス・フライ女史 (Elizabeth Fry 1780-1845) : 19世紀前半に活躍した英国の監獄改良・慈善事業家。彼女はロンドン・ニューゲート監獄における女性受刑者の処遇改善や監獄内の児童に対して教育を開始するなど, 19世紀を代表する社会改良家である。
- 18) 深津文雄編: キリストの愛をはこんだ人々9 エリザベス・フライ, ディアコニ No.9, pp.6-9, 1955年10月。
- 19) JANET & GEOFF BENGE, ELIZABETH FRY Angel of Newgate, Emerald Book, 2015.
- 20) Florence Nightingale (1851) : 前掲書6), p.10.
- 21) エリザベト・フォーリンガー, 深津文雄編: キリストの愛を運んだ人々5 ゲルトレーテ・ライヒャルト, ディアコニア No.5, pp.9-11, 1956年。
- 22) ゲルトレーテ・ライヒャルト (Gertrud Reichardt 1788-1869) : フリードナー牧師の父親の時代から仕事を手伝っていた医者の娘。
- 23) フリードリケ・フリードナー (Frederike Flieβner 1800-1842) : カイザルスウエルトで1836年に新しく設立したディアコネッセスハウスのリーダー。フリードリケは, ディアコネッセスマザーとして彼女の夫と一緒にその訓練に関するアイデアを開発した。多くの老人ホームにまだその名前が残っている。
- 24) Catherine Winkworth : 前掲書11), p.74.
- 25) Catherine Winkworth : 前掲書11), p.75.
- 26) Florence Nightingale (1851) : 前掲書6), p.12.
- 27) Florence Nightingale (1851) : 前掲書6), pp.12-13.
- 28) Florence Nightingale (1851) : 前掲書6), p.13.
- 29) フレデリック・フレーベル (Friedrich Frobel 1782-1852) : ドイツの教育家, 幼稚園の創始者。イエーナ大学時代, ドイツロマン派の影響を強く受けると同時に, 1805年 (文化2年), ペスタロッチー ((Johann Heinrich Pestalozzi 1746-1827 ドイツの教育改良家) に会い, 決定的な影響を受けた。内面的には超越的な神と自然と人間とを統一的にとらえる。彼の三つの教育の原理として自己活動の原理, 労働の原理, 社会の原理があり, 個人の発達と人類の発展とを相互媒介的に考えた。児童の作業や遊びは個人の発達の問題であることに止まらず, 人類の発展に連なるものと評価される。
- 30) メンヒェングラートバッハ (Mönchengladbach) : ライン川の約15キロ西に位置する工業都市。近隣の都市としては, 約25キロ東にカイザルスウエルト学園があるデュッセルドルフ (Düsseldorf) がある。
- 31) 真壁伍朗著: 前掲書2), pp.59-77.
- 32) 真壁伍朗著: 前掲書2), p.74.
- 33) キャロライン・パーソー (Caroline Bertheau 1826-1892) : フリードナー牧師の二度目の妻, フリードリケが逝去したのちフリードナー牧師と結婚。結婚後, 夫の仕事を手伝った。夫の死後は, フリードナー財団の発展に努め, 健康サービスのための母の家に20,000人にも及ぶディーコネスを擁する組織に発展させた。

- 34) 深津文雄編：ディコニア No.6, p.9, 1955年4月.
- 35) Florence Nightingale (1851)：前掲書6), p.7.
- 36) 深津文雄編：ディアコニ 2, pp.6-9, 1954年8月.
- 37) 深津文雄編：ディアコニ 4, pp.6-9, 1954年11月.
- 38) 聖ヴァンサン・ド・ポール (St.Vincent de Paul 1580-1660)：司祭で博愛主義者. 1600年に司祭になるが, 1605年に海賊に捕らえられ, 奴隷として売られる. キリスト教信仰に戻りたいと主人を説得し, 1607年にフランスに逃れ, 1625年にラザリスト会という伝道司祭組合を作り, 1634年に慈善女子修道女会を作った. 1737年に聖人の一人に加えられた.
- 39) Florence Nightingale (1851)：前掲書6), p.9.
- 40) 深津文雄編：ディアコニ 5, pp.6-9, 1955年2月.
- 41) 深津文雄編：ディアコニ 5, 前掲書41), p.6.
- 42) フリードリッヒ・ウィルヘルム四世 (Friedrich Wilhelm IV. 1795-1861)：プロイセン王 (在位：1840-1861年). 彼は父王のおこなった復古的・抑圧的政治を終わらせ, ローマ・カトリック教会との対立を解消させた. 同様に, 古ルター派に向けた抑圧政策も終わらせた結果, 逮捕されていた牧師は釈放され, 古ルター派教会による独自教会組織結成も許され, 教会堂の建設も認められた.
- 43) 深津文雄編：ディアコニ15, p.11, 1956年10月.
- 44) 深津文雄編：ディアコニ15, 前掲書43), p.12.
- 45) 真壁伍朗著：前掲書2), p.66.
- 46) ジョン・スチュワート・ミル (John Stuart Mill 1806-1873)：イギリスの哲学者, 経済学者. ジェームズ・ミルの息子. ベンサム の助言に基づき父ジェームズによって早期教育を受ける. 『経済学原論』や『自由論』を書いて, 私有財産制や経済的自由を擁護しつつもその限界を認め, また自由を経済的自由からよりも精神的自由から根拠付けて, 自由主義に新しい展開を与えた.
- 47) Florence Nightingale (1851)：前掲書6), pp.3-4.
- 48) 佐々木秀美著：ナイチンゲール方式による看護教育の特徴とその拡がりー教育の創造と伝承, 看護学統合研究 Vol.14, No.2, pp.14-41, 2013年.
- 49) 佐々木秀美著：ナイチンゲールの看護観ーその目的実現のための教育方法ーNursing is not an Art but a Character, 看護学統合研究 Vol.14, No.1, pp.46-66, 2012年.
- 50) Lucy Ridgely Seymer: A General History of Nursing, (小玉香津子訳; 看護の歴史, 医学書院, 1978年.)
- 51) Florence Nightingale (1882): Nurses, Training of, and Nursing the Sick, (湯楨ます他訳: ナイチンゲール著作集第二巻, 看護師の訓練と病人の看護, p.80, 現代社, 1985年.)
- 52) Florence Nightingale (1888): To the nurses and probationers trained under the "Nightingale Fund", (湯楨ます他訳; ナイチンゲール著作集第三巻, 看護師と見習い生への書簡, p.394, 現代社, 1985年.)
- 53) Florence Nightingale (1888): 前掲書52), p.80.
- 54) Florence Nightingale (1860): Note on Nursing, p.152, Scutari Press, 1992.
- 55) レベッカ・ストロング (Rebecca Strong 1843-1944)：1867年にナイチンゲール看護婦養成学校に入学した. 彼女は看護教育において臨床に入る前に3か月の基礎教育を始めて開始し, 看護登録制度を推進した. 100歳を超えても尚, 知的能力を有していた.
- 56) Florence Nightingale (1888): 前掲書52), p.322.
- 57) フレデリック皇后 (The Empress Friedrich 1840-1901)：ヴィクトリア女王の長女で名前をヴィクトリア・アデレイド・マリー・ルイズという. プロシアの王ギョウム1世の長子フレデリックと結婚した. 後のドイツ皇帝カイゼルの母親.
- 58) ハニ・ウォルフ (Hanni Wolf 1914-1996)：イギリスリヴァプールで生まれたが, 父の死後, ドイツへ. 栄養士の資格取得後, シュベスターとしてディアコニッセに加わり, 病人の看護を行う. 1953年にディアコニッセとして来日. 浜松聖隷の看護・福祉活動及び教育活動に参画.